

財政収支(2018年1-4月)

(1) 2018年1-4月における歳入は前年同期比17.3%増。所得税及び法人税が大きく伸び、税収は20.3%の増加となった。

(2) 歳出面では、人件費や資本的支出が前年同期から増となるなど、歳出全体では18.3%の増加となった。

(3) 財政収支は232億リラの赤字となり前年同期から29.6%の減少。プライマリーバランスは47.0%減少し、22億リラの黒字。

データ:財務省 単位:百万リラ

歳入・歳出内訳	2017年(A)	2018年(B)	増加率 ((B-A)/A)
歳入(a)	197,777	232,046	17.3%
税収	158,699	190,852	20.3%
所得税	33,262	42,116	26.6%
法人税	13,251	17,357	31.0%
付加価値税(国内及び輸入)	46,890	55,817	19.0%
特別消費税	38,569	44,401	15.1%
その他税収	26,727	31,161	16.6%
税外収入等	39,078	41,194	5.4%
歳出(b)	215,657	255,220	18.3%
人件費	55,261	64,504	16.7%
物品及びサービスの購入	16,500	18,675	13.2%
経常移転	96,971	102,427	5.6%
資本支出	9,325	21,861	134.4%
支払利子(c)	22,050	25,385	15.1%
その他歳出	15,550	22,368	43.8%
財政収支(a-b)	▲ 17,880	▲ 23,174	▲ 29.6%
基礎的財政収支(a-(b-c))	4,170	2,211	▲ 47.0%

経常収支(2018年1-3月)

(1) 2018年1-3月の経常収支は、前年同期比95.5%減少し、164億ドルの赤字。

(2) 貿易収支は前年同期比101.9%の減少、旅行収支は同31.7%の増加。

データ:中央銀行 単位:百万ドル

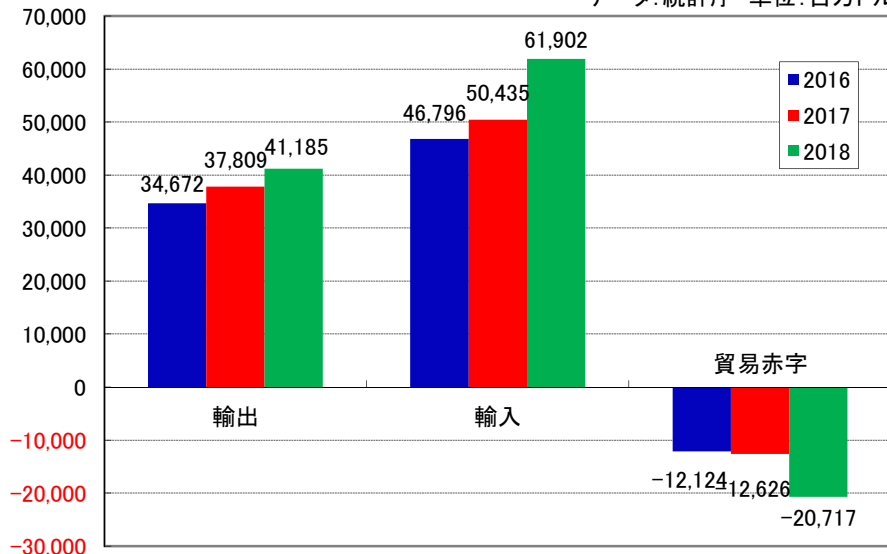
内訳	2017年(A)	2018年(B)	増加率 ((B-A)/A)
経常収支	▲ 8,383	▲ 16,392	▲ 95.5%
貿易収支(物品)	▲ 8,501	▲ 17,164	▲ 101.9%
サービス収支	1,742	2,967	70.3%
旅行収支	2,013	2,651	31.7%
その他サービス収支	▲ 271	316	216.6%
第1次所得収支	▲ 2,181	▲ 2,378	▲ 9.0%
第2次所得収支	557	183	▲ 67.1%
労働者送金	116	72	▲ 37.9%
その他第2次所得収支	441	111	▲ 74.8%
資本移転等収支	▲ 10	29	390.0%
金融収支	▲ 11,942	▲ 12,676	▲ 6.1%
直接投資	▲ 2,179	▲ 1,006	53.8%
証券投資	▲ 4,425	▲ 2,326	47.4%
その他投資	▲ 1,342	▲ 8,635	▲ 543.4%
外貨準備	▲ 3,996	▲ 709	82.3%
誤差脱漏	▲ 3,549	3,687	203.9%

貿易収支(2018年1-3月)

(1) 2018年1-3月の輸出額は412億ドル(前年比8.9%増)、輸入額は619億ドル(同22.7%増)となり、この結果、貿易収支は207億ドルの赤字(同64.1%減)となった。

(2) 2018年1-3月の輸出額におけるEU向け輸出の占める割合は51.8%(前年46.5%)、輸入額におけるEU向け輸入の占める割合は36.6%(同35.8%)となっている。

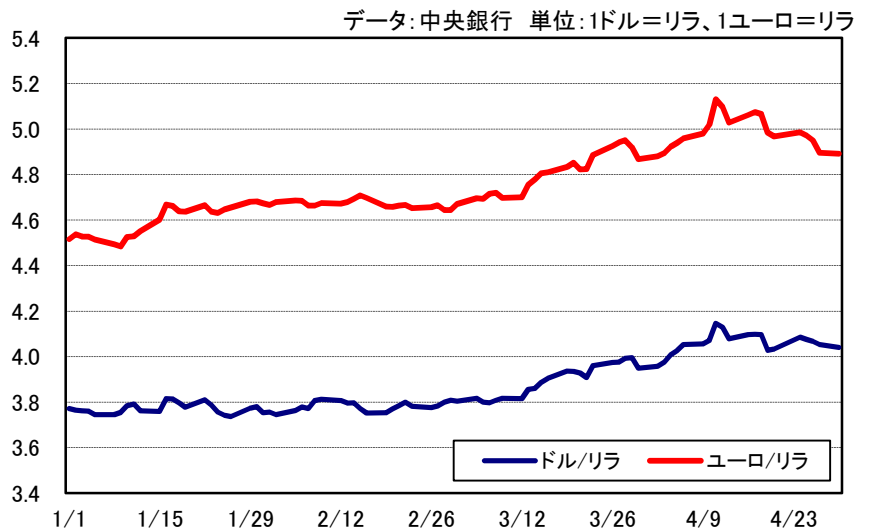
データ:統計庁 単位:百万ドル



為替(4月)

(1)4月のドル・リラ相場は、上旬から中旬にかけ、リラ安が進行。一時1ドル=4.1リラを突破したが、最終的には、1ドル=4.04リラとなった。

(2)ユーロ・リラ相場もドルと同様の動き。一時1ユーロ=5.13リラを超え、最終的に1ユーロ=4.89リラで越月した。

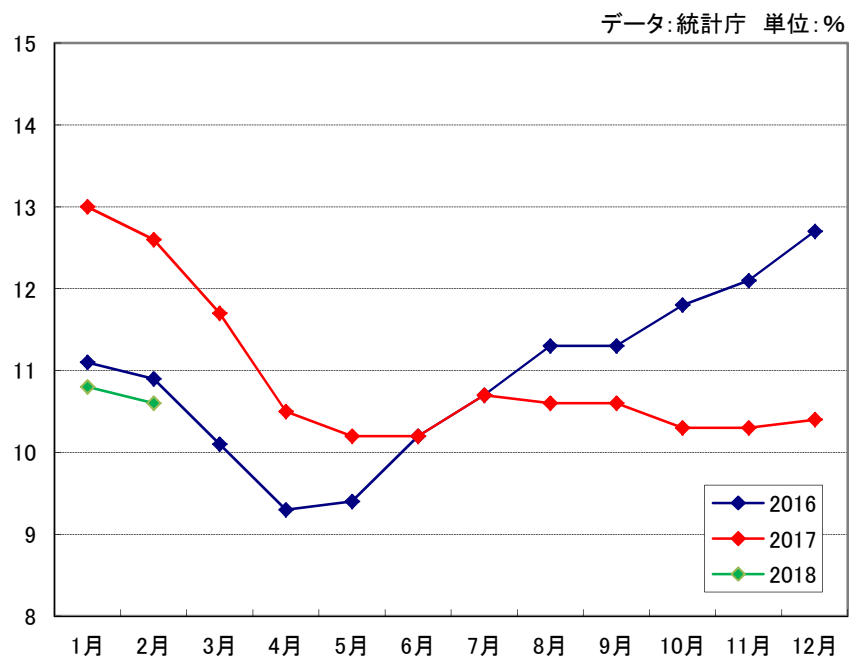


失業率(2月)

(1)2018年2月期の失業率は、10.6%。前年同期から2.0ポイントの下落、前月から0.2ポイントの下落。

(2)労働力人口は3,152万人、就労者数は2,817万人、失業者数は335万人。

(3)男性の失業率は9.3%、女性は13.4%。若年層(15-24歳)の失業率は19.0%となっている。



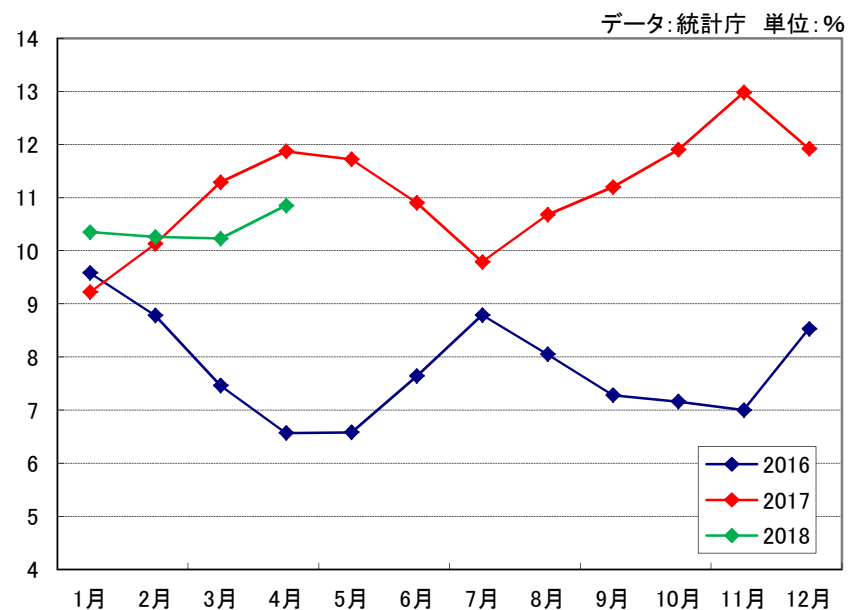
物価上昇率(4月)

(1)2018年4月の消費者物価は前月から1.87%の上昇。年間では10.85%の上昇。

(2)分野別に見ると、前月と比べて最も上昇したのは衣類・靴で10.40%。年間で最も上昇したのは家具・住宅設備で16.75%。

(3)本年末の中銀見通しは8.4%。

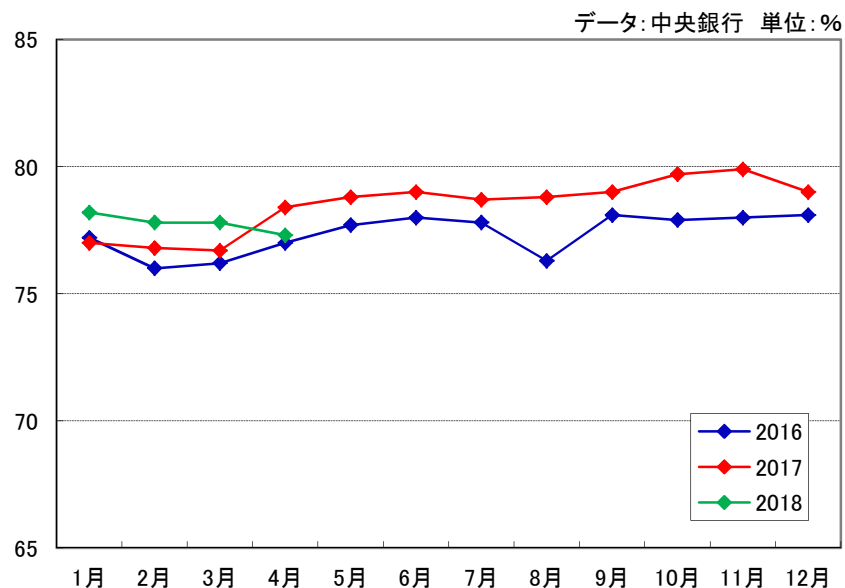
(4)国内生産者物価指数は前月から2.60%上昇し、年間で16.37%の上昇となった。



設備稼働率(4月)

(1)2018年4月の設備稼働率は77.8%となり、前月から0.5ポイントの下落。前年同月からは1.1ポイントの下落となった。

(2)製造業の分野別では、紙及び紙製品(87.2%)が最も稼働率が高く、革及び革関連製品(58.6%)が最も低い稼働率であった。

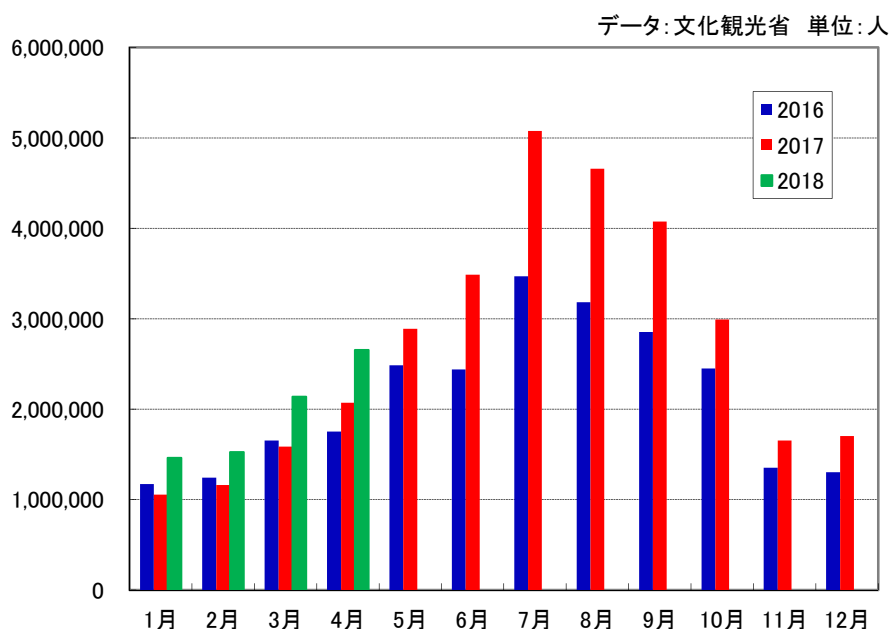


外国人訪問者数(4月)

(1)2018年4月にトルコを訪れた外国人訪問者は265万人であり、前年同月比28.3%増となった。

(2)訪問者数を国別に見るとロシアからが最も多く29.3万人で全体の11.0%を占める。以下、ドイツ(25.5万人)、ブルガリア(20.2万人)となっている。

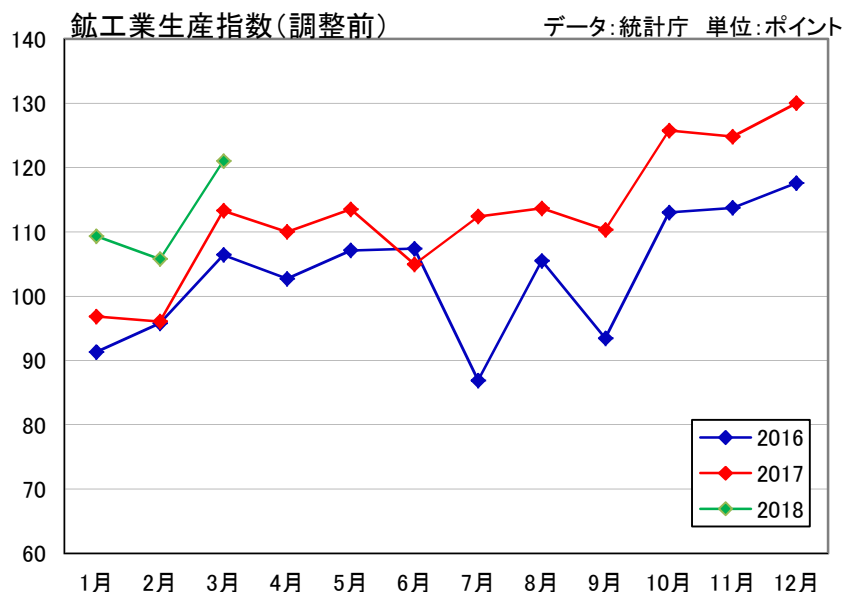
(3)なお、日本からの訪問者は5,857人(前年同月比100.8%増)となった。



鉱工業生産指数(3月)

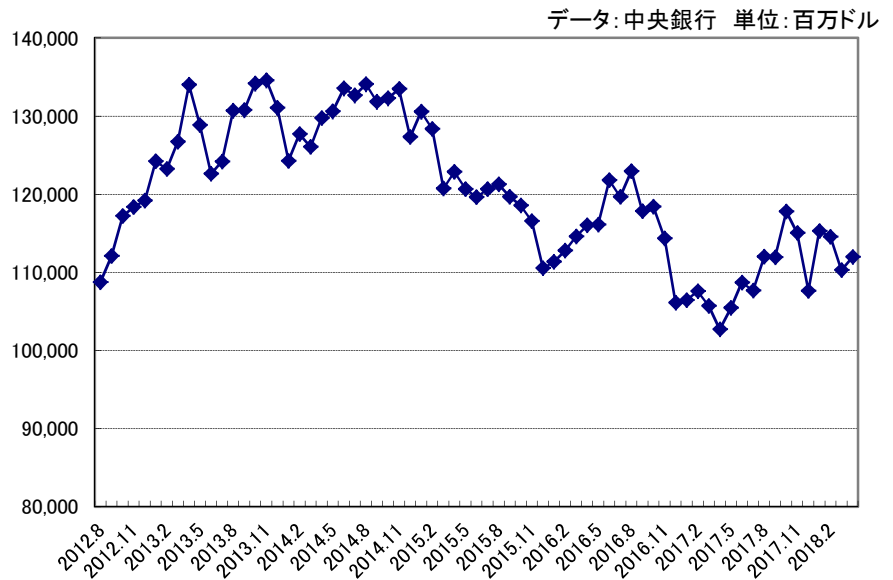
(1)2018年3月期の鉱工業生産指数(調整前)は121.0ポイント(2015年=100)となり、日数調整後の前年同月比は7.6%の上昇、季節及び日数調整後の前月比は0.2%の上昇。

(2)分野別では、耐久消費財が前月比2.6%増となったのに対し、中間財が同1.1%減となっている。



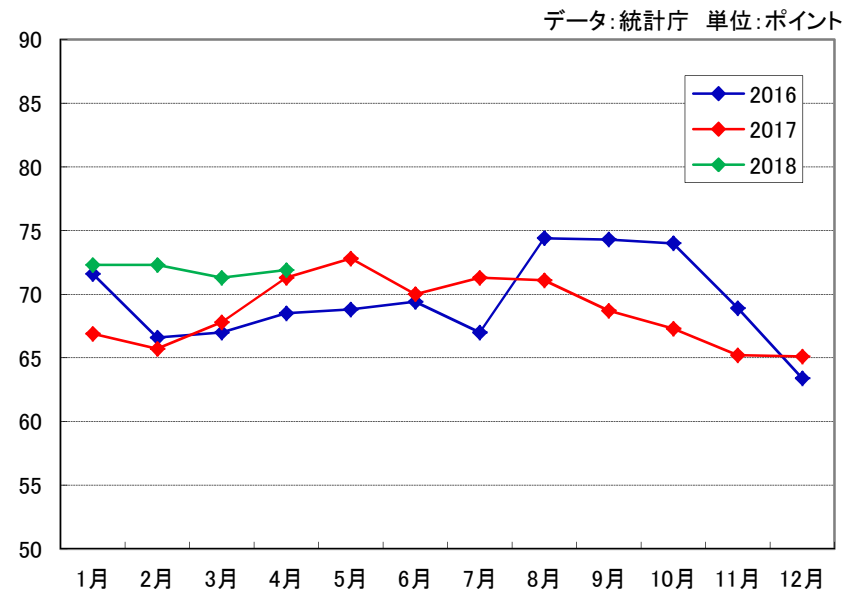
外貨準備高(4月)

(1)2018年4月時点での中央銀行の外貨準備高(金を含む)は1,119億ドルとなった。
 (2)外貨準備高は、一時1,300億ドルを超えていたが、現在は1,100億ドル付近で増減を繰り返している。



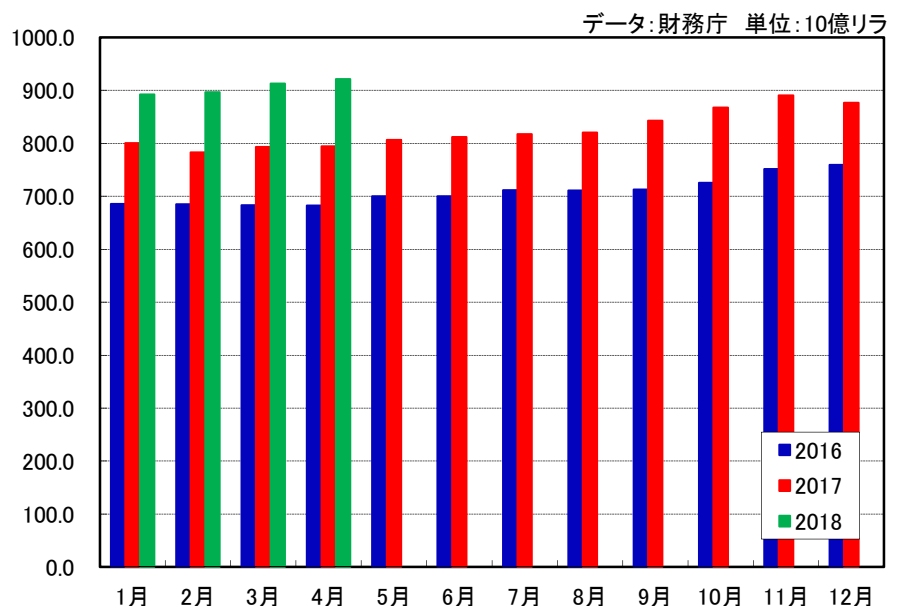
消費者信頼感指数(4月)

(1)2018年4月期の消費者信頼感指数は前月から0.8%上昇し71.9ポイントとなった。
 (2)内訳では、貯蓄可能性が8.5%上昇し28.2ポイントとなったのに対し、家計における財政状況の見通しが0.5%下落し90.2ポイントとなった。



中央政府債務残高(4月)

(1)2018年4月時点での中央政府債務残高は9,211億リラとなり、前年同期比15.9%増加した。なお、前月比では0.9%の増加となった。
 (2)また、国内債務比率と自国通貨債務比率は共に60.0%となっている(2017年末61.1%)。
 (3)なお、円建て外債(サムライ債)の発行により、債務残高のうち円は2.8%で、外貨ではドル、ユーロに次ぐ地位を占めている。



※本資料は、当館がトルコ政府発表資料を取り纏めた参考資料であり、当館がその正確性等を保証するものではありません。